

氏名	箕浦 明
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4895 号
学位授与の日付	平成26年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Association of Dietary Fat and Carbohydrate Consumption and Predicted Ten-year Risk for Developing Coronary Heart Disease in a General Japanese Population (一般の日本人における脂肪および炭水化物の摂取と10年冠状動脈性心疾患発症リスク推測との関係)
--------	---

論文審査委員	教授 伊藤 浩 教授 土居 弘幸 准教授 和田 淳
--------	---------------------------

学位論文内容の要旨

本研究では、一般の日本人労働者における10年冠状動脈性心疾患(CHD)発症リスクと食事の主要栄養素との関係について検討することを目的とした。対象は、某県の企業健診を受診した6社の社員847人から、狭心症、心筋梗塞等の既往歴、またはデータに欠損のある者を除外した809人(男性337名、女性472名)とした。方法は、対象者の10年CHD発症リスクを決定するために、フラミンガム・リスクスコアを用いて、健診データからCHDリスク値を算出した。食事摂取成分の解析には、食事摂取頻度調査法 FFQg を用いた。ロジスティック解析により、炭水化物エネルギーを多く摂取する群で予測される10年後のCHD発症リスクが高くなり、他変数の調整後も高かった。また、10年CHD発症リスクは、脂質エネルギーの摂取及びn6/n3脂肪酸比とは負の関係を示した。以上より、一般の日本人労働者のCHD発症リスクは、食事の炭水化物エネルギー、脂質エネルギー、及びn6/n3脂肪酸比との関連性が示唆された。

論文審査結果の要旨

食習慣の欧米化に伴って、動脈硬化に由来する冠動脈疾患は本邦でも増加している。本研究は、食習慣の心疾患リスクに及ぼす影響を健診データをもとに検討したものである。心疾患リスクは世界的に確立したフラミンガム・リスクスコアによって評価した。フラミンガム・リスクスコアが高い群は、それ以外の低リスク群に比べて、BMI、腹囲が高く、中性脂肪、高感度CRPが高値で、HDL-Cが低値であった。食習慣との関係から見ると、炭水化物の摂取の増加がリスクスコア増加と関連した因子であった。今後の生活習慣病の指導において重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。